

# 主要な現代アート賞 受賞者のジェンダーバランス

1956 – 2025

国内6賞の「最高賞」受賞者の男女内訳（個人受賞者126名）

2026年6月29日

NMWA Japan ジェンダーバランス調査 | VOCA・岡本太郎賞・日産・TCAA・シェル/Idemitsu Art Award・AATM丸の内

# 本資料について

## 対象の6賞

VOCA賞（1994～）・岡本太郎賞（1998～）・日産アートアワード（2013～2020）・TCAA（2019～）・シエル美術賞/昭和シエル石油現代美術賞/Idemitsu Art Award（1956～1981、1996～2001、2003～）・アートアワードトーキョー丸の内（2007～）。

## 対象範囲

各賞の「最高賞」受賞者のみ（奨励賞・入選等は含まない）。  
※岡本太郎賞は第1～9回(1998-2006)は大賞が該当者なし。

## 集計の母数

女性比率は個人受賞者（女+男）が母数。  
アーティストユニット（グループ6件）は別カウント。

## 性別判定

氏名・公表プロフィール・受賞報道に基づき判定（推測での断定は避ける）。

## データの性格

手作業でWeb収集した一次データ（正典）。出典＝各賞の公式サイト（岡本太郎賞 [taro-okamoto.or.jp](http://taro-okamoto.or.jp) / シエル・Idemitsu [idemitsu.com](http://idemitsu.com) / VOCA 上野の森美術館 / 日産アートアワード / TCAA [tokyocontemporaryartaward.jp](http://tokyocontemporaryartaward.jp) / 丸の内 AATM [marunouchi.com](http://marunouchi.com)）。

# 主要な発見

受賞者全体（6賞合算）

# 40%

が女性（個人126名中51名）

歴史的な男性優位から大きく改善

2020年以前

# 34%

が女性による受賞

歴史的に賞の増加とともに女性受賞率が改善

2021年以降

# 64%

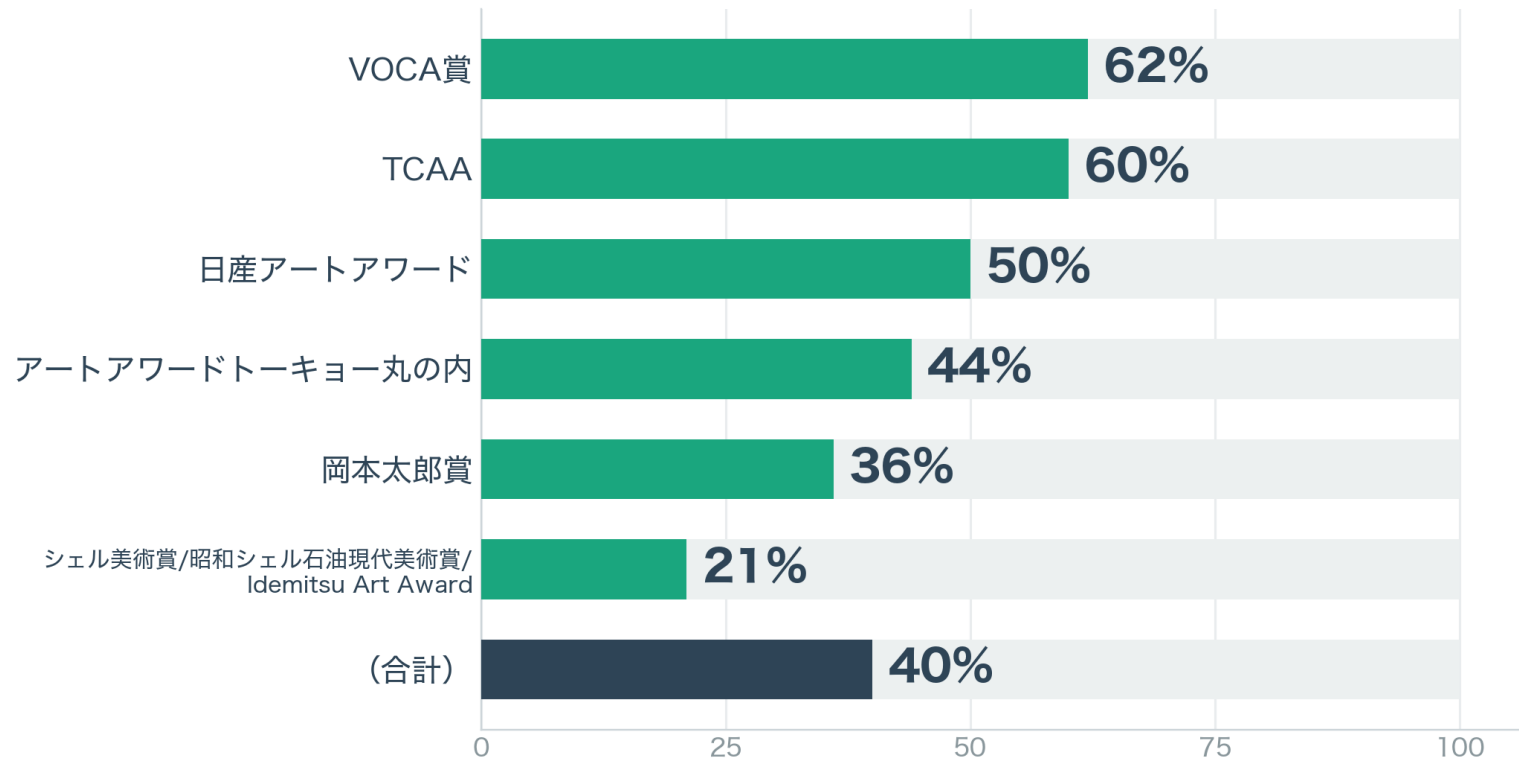
が女性による受賞

大幅な改善で、美術系学部卒業の学生比率に近似

受賞者全体では女性が40%だが、時代差が大きい。賞の数が増えるとともに女性受賞率は上昇し、2020年以前の約34%から2021年以降は64%へ大幅に改善。美術系学部の学生の女性比率（約68%）に近い水準である。

# 賞別の女性比率

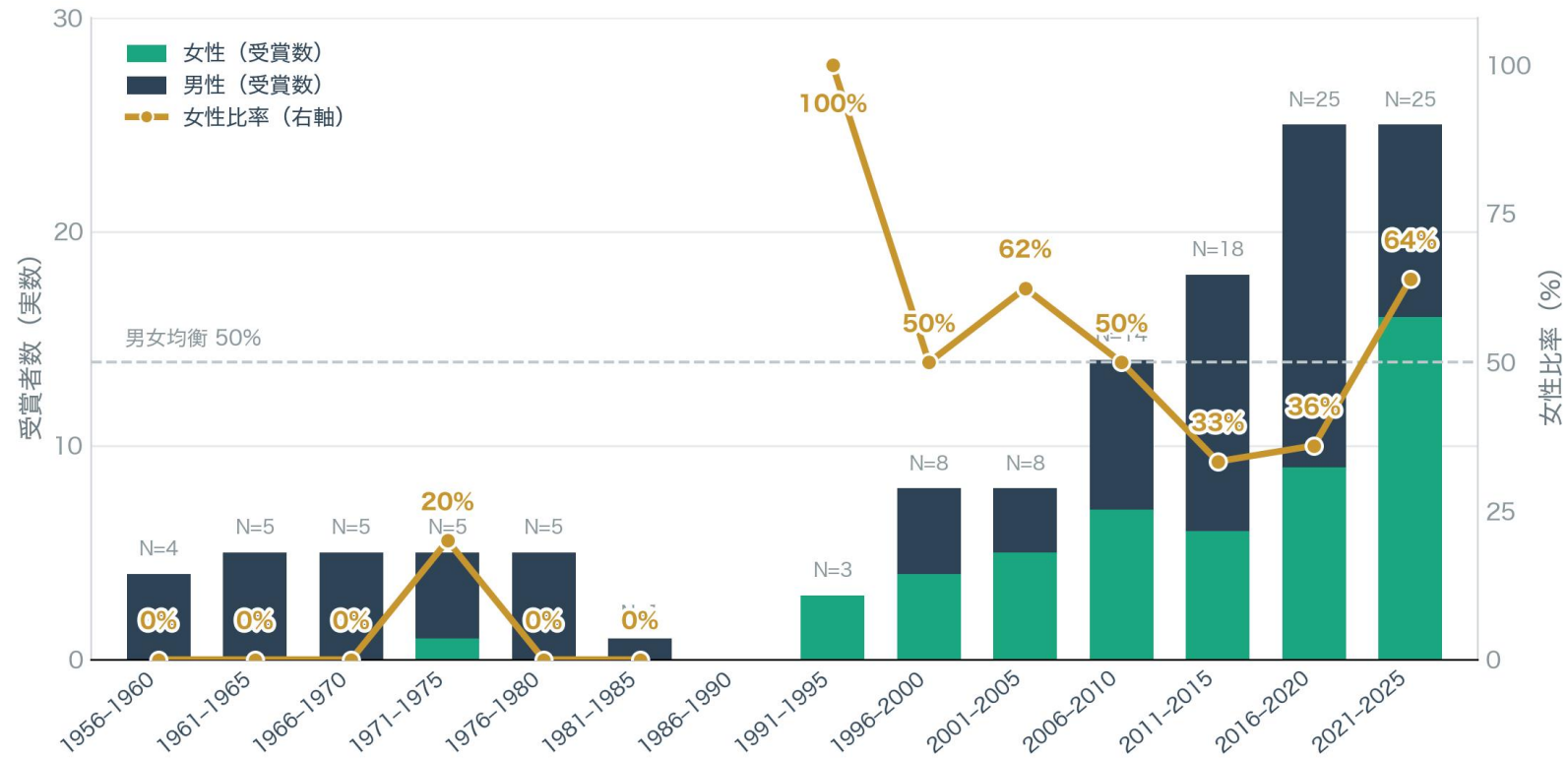
6賞の最高賞受賞者に占める女性の割合（個人受賞者ベース）



VOCA賞・TCAAは女性が多数（62%・60%）、日産は均衡（50%）。  
一方で岡本太郎賞（36%）・シェル/Idemitsu Art Award（21%）は男性優位。  
賞の性格・歴史で大きく異なる。

# 受賞数と女性比率の推移（全賞合算）

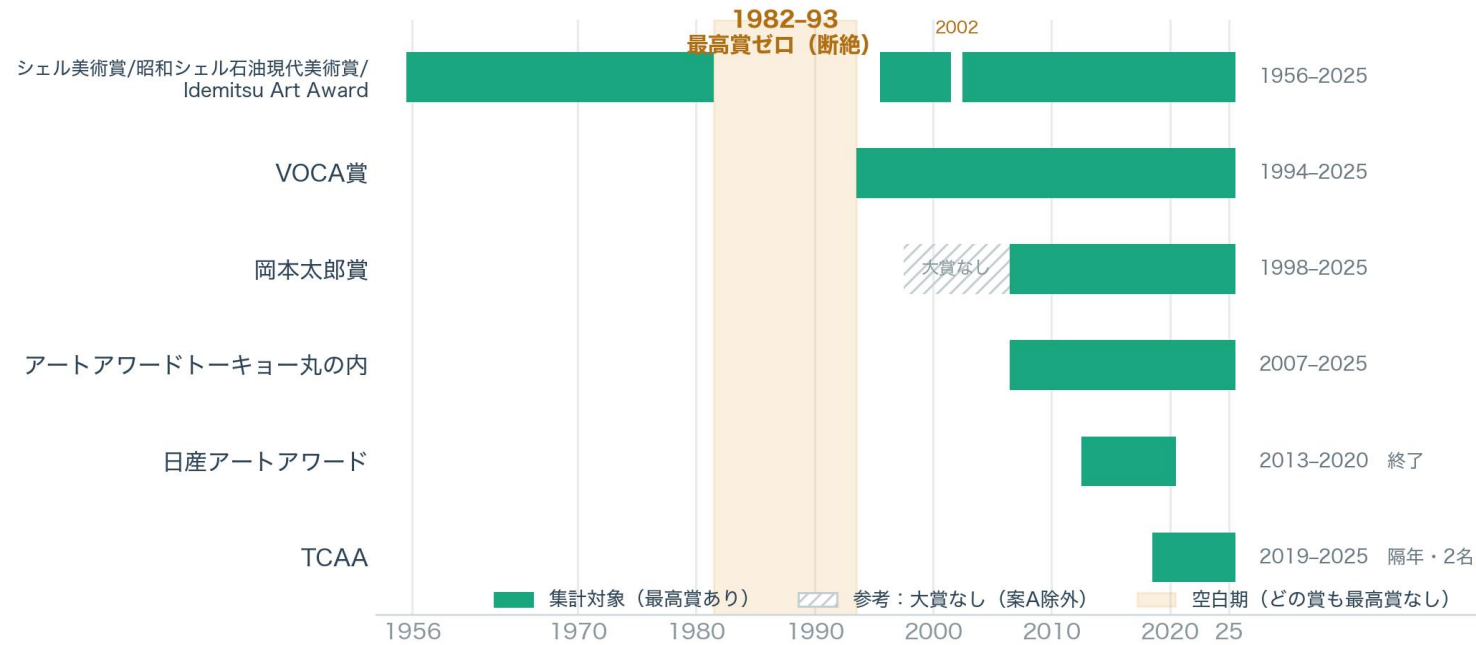
5年刻みの受賞者数（男女）と女性比率（1956–2025年）



1980年代まではほぼ全員が男性で受賞自体も僅少（1986–90は最高賞ゼロ、詳細は次ページ）。  
賞の数が少ない年代ほど比率が振れるため、標本が増える2000年前後から安定し始め、2010年代は3割台、直近2021–2025は64%へ。

# 参考：6賞の開催期間（最高賞の収録年）

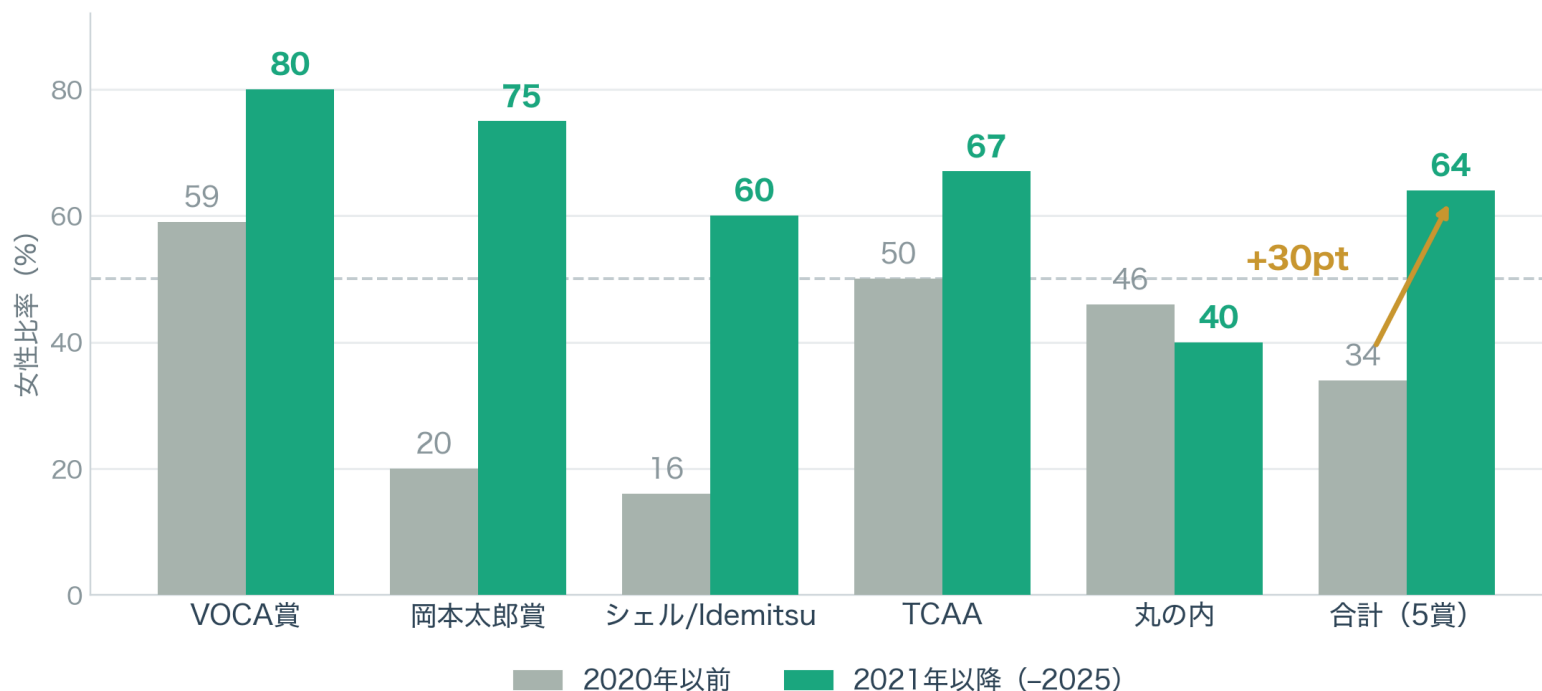
1990年代まで現代アートの賞自体がほとんど無く、1982-93はどの賞も最高賞ゼロ



前頁の推移で1980年代が断絶するのはこのため。旧シェル美術賞（1956-81）が長く唯一の賞だったが1981年で休止し、次のVOCA賞（1994-）まで最高賞を出す賞が存在しなかった。賞が一気に増えるのは2000年代後半以降。

# 近年の改善：2020年以前 vs 2021年以降

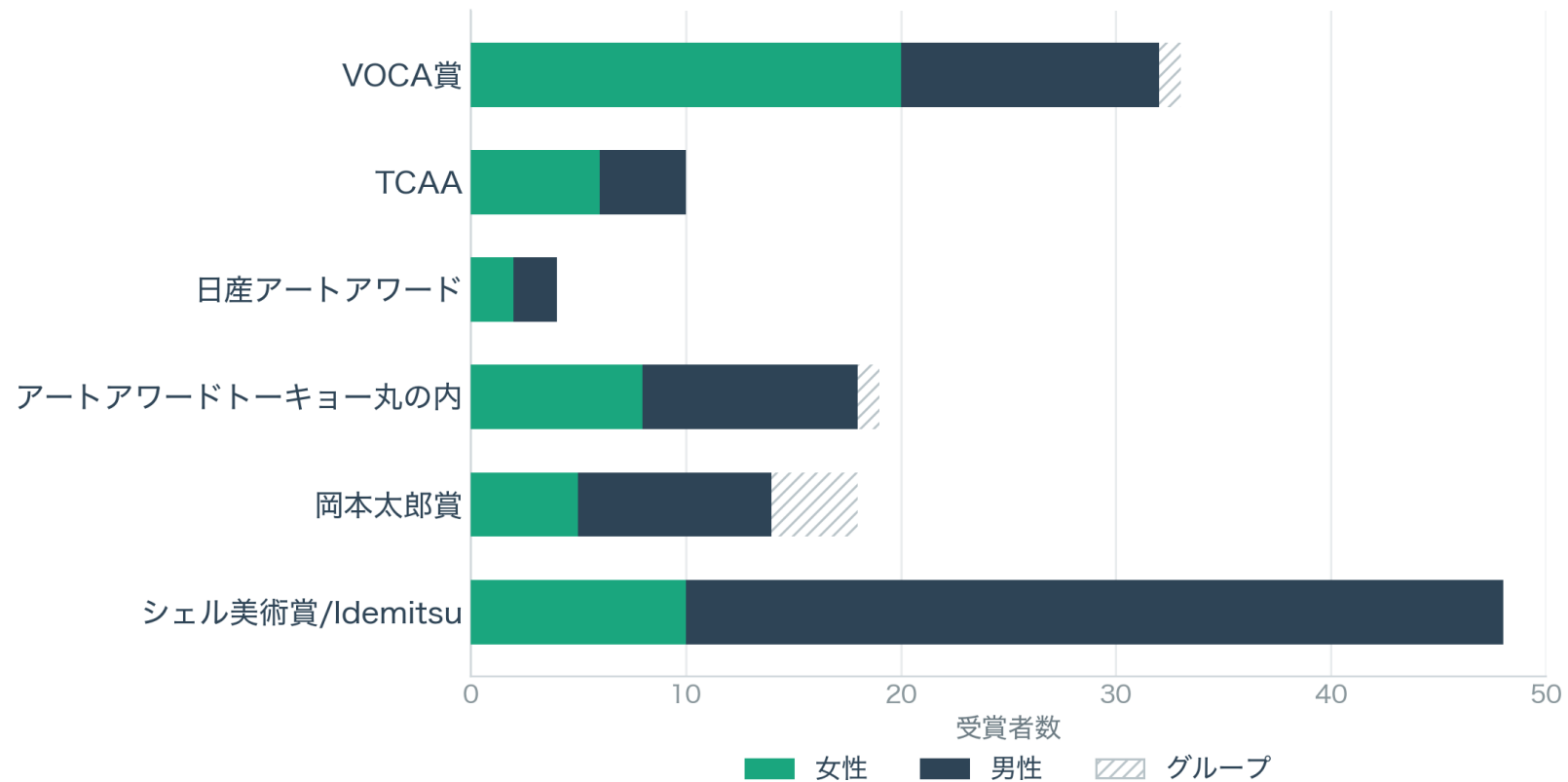
最高賞受賞者の女性比率（同一5賞・日産アートアワードは2020年終了のため除外）



直近5年（2021–2025）で女性比率は34%→64%へ上昇し、男女が逆転。特に歴史的に男性優位だった岡本太郎賞（20→75%）・シェル/Idemitsu Art Award（16→60%）の改善が顕著。受賞という評価の場では近年は女性が多数に。

# 【参考】賞別の内訳（女・男・グループ）

受賞者数の構成（グループは別カウント）



シエル美術賞/Idemitsu Art Awardは件数が最も多く男性に偏る。  
グループ6件のみ性別比率算出の母数から除外している。

# まとめ

## 全体では男性が約2/3

6賞合算の女性比率は40%。受賞という「評価」の場でも男性が多数を占める。

## 賞による差が大きい

VOCA62%～シェル21%。新しい賞・公募型は女性比率が高い傾向。

## 時代差：近年は回復

旧シェル(1956-81)も女性は1名のみ。2010年代は3割台、直近2021-2025は64%へ上昇(美術系大学の学生の女性率を反映か)

# 本調査に関する問い合わせ先

一般社団法人NMWA日本委員会

ジェンダーバランス調査チーム

[survey@nmwa-japan.com](mailto:survey@nmwa-japan.com)